

2012 年 7 月の東北地方の天候

【 7 月の特徴 】

○梅雨明けをはさんで下旬は寒暖の変動が大きかった

○上旬は東北南部で大雨があり、中旬は東北北部で大雨があった

(1) 2012 年 7 月の概況

この期間、高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受け、天気は周期的に変わった。中旬の終わりから下旬のはじめにかけてはオホーツク海高気圧の影響で気温が低くなり、下旬の後半は太平洋高気圧におおわれて気温が高くなるなど、梅雨明けをはさんで下旬は寒暖の変動が大きかった。また 6 日から 8 日にかけては低気圧の影響で東北南部を中心に大雨となり、15 日から 16 日にかけては梅雨前線の影響で東北北部を中心に大雨となった。

東北南部・東北北部ともに 7 月 26 日ごろ梅雨明けしたと見られ、東北南部では平年より 1 日遅く、東北北部では平年より 2 日早い梅雨明けとなった（速報値）。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：期間の中頃までは低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の終わりは移動性高気圧におおわれておおむね晴れた。平年よりも暖かい空気におおわれたため東北日本海側で気温が高くなった。

5 日は、寒気を伴った気圧の谷の影響で東北日本海側を中心に大雨となった。6 日から 8 日にかけては、低気圧が本州付近を通過した影響で東北南部を中心に大雨となった。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。

中旬：期間の前半は東北地方に梅雨前線が停滞し曇りや雨の日が多かったが、期間の後半は高気圧におおわれておおむね晴れた。梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り、東北南部で気温が高くなった。17 日には、白河で日最高気温 36.0℃を観測し通年の日最高気温の高い方からの極値を更新した。

12 日は、梅雨前線の影響で岩手県、秋田県、宮城県で大雨となったところがあった。15 日から 16 日にかけては、梅雨前線の影響で東北北部を中心に大雨となった。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

下旬：期間の前半は気圧の谷や湿った東よりの風の影響で曇りや雨の日が多く、期間の後半は太平洋高気圧におおわれて晴れの日が多かった。期間のはじめはオホーツク海高気圧の影響で気温が低くなり、期間の後半は太平洋高気圧におおわれて気温が高くなるなど寒暖の変動が大きかった。31 日には、むつで日最高気温 34.7℃を観測し通年の日最高気温の高い方からの極値を更新し、青森で日最高気温 35.4℃を観測し 7 月の日最高気温の高い方からの極値を更新した。

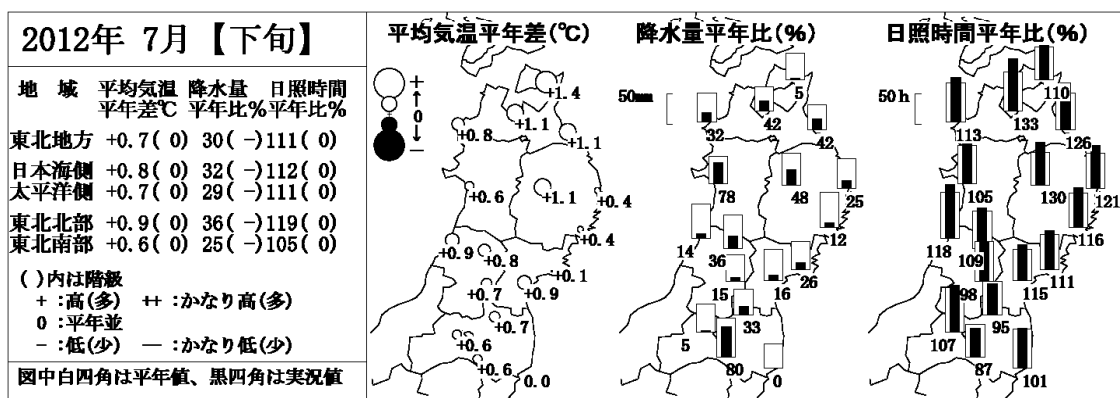
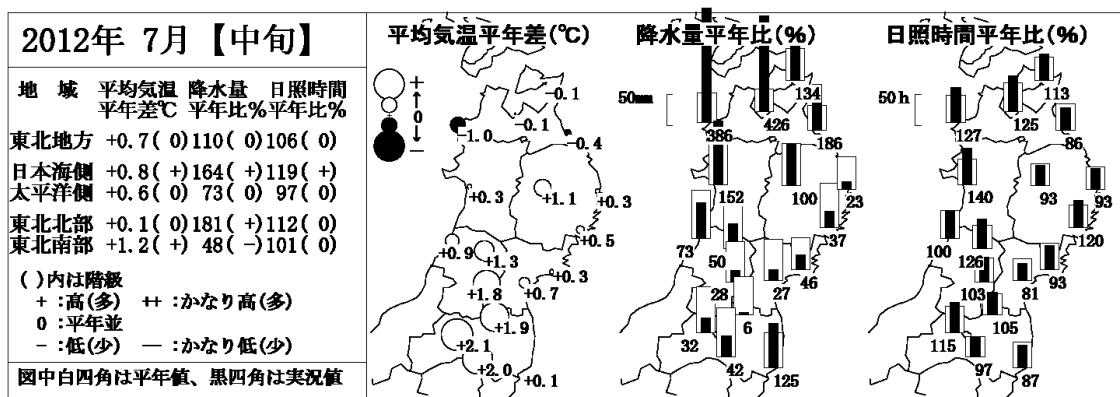
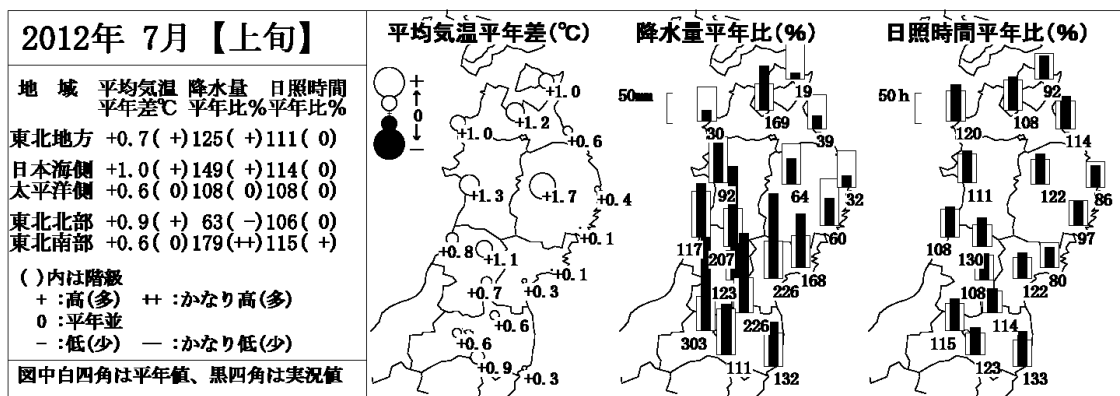
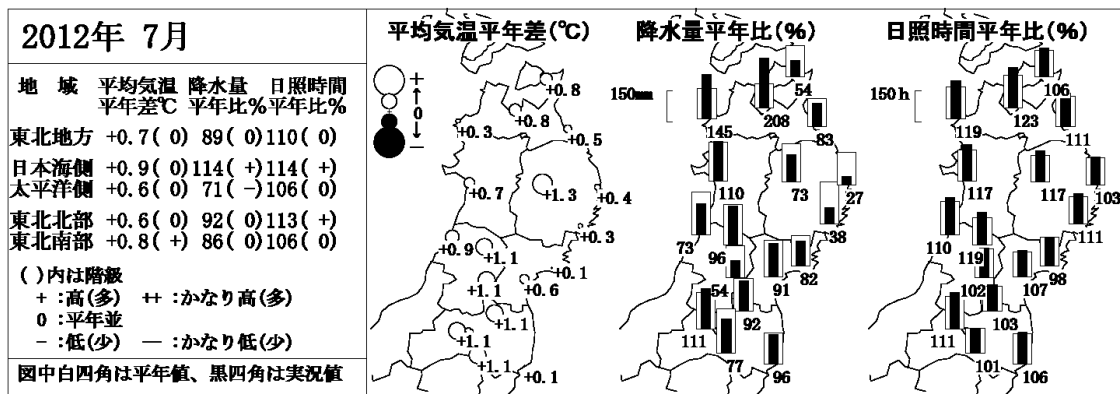
25 日は、気圧の谷の影響で秋田県と青森県で大雨となったところがあった。28 日から 30 日にかけては、大気の状態が不安定となり福島県で大雨となったところがあった。

平均気温は平年並。降水量は少ない。日照時間は平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ
合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は 1981～
2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年7月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 7 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	21.9	(+0.8)	○	243.0	(208)	+*	8	195.7	(123)	+
深 浦	21.6	(+0.3)	○	218.0	(145)	+	8	186.8	(119)	+
む つ	20.3	(+0.8)	○	82.5	(54)	—	6	139.4	(106)	○
八 戸	20.6	(+0.5)	○	113.5	(83)	○	9	164.7	(111)	+
秋 田	23.6	(+0.7)	○	207.5	(110)	○	9	175.8	(117)	+
盛 岡	23.1	(+1.3)	+	135.0	(73)	—	9	150.9	(117)	+
大 船 渡	21.3	(+0.3)	○	78.5	(38)	—*	13	147.4	(111)	○
宮 古	20.2	(+0.4)	○	43.0	(27)	—*	11	138.0	(103)	○
仙 台	22.8	(+0.6)	○	164.0	(91)	○	9	128.3	(107)	○
石 巻	21.5	(+0.1)	○	122.0	(82)	○	8	134.7	(98)	○
山 形	24.4	(+1.1)	+	84.0	(54)	—	10	146.8	(102)	○
新 庄	23.5	(+1.1)	+	190.0	(96)	○	11	160.0	(119)	+
酒 田	24.2	(+0.9)	+	153.0	(73)	—	11	181.1	(110)	+
福 島	24.7	(+1.1)	○	147.5	(92)	○	10	127.5	(103)	○
若 松	24.6	(+1.1)	+	194.5	(111)	○	10	177.9	(111)	+
白 河	23.3	(+1.1)	+	166.0	(77)	—	15	122.8	(101)	○
小 名 浜	22.1	(+0.1)	○	144.0	(96)	○	9	157.5	(106)	○

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

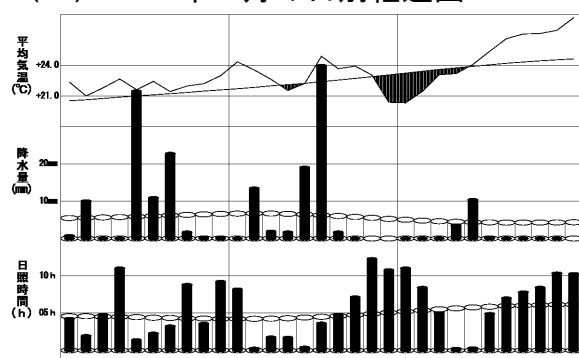
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

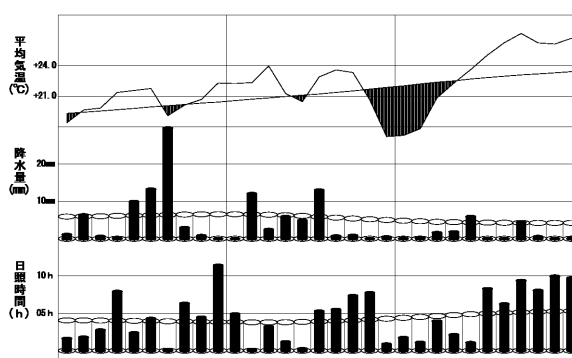
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

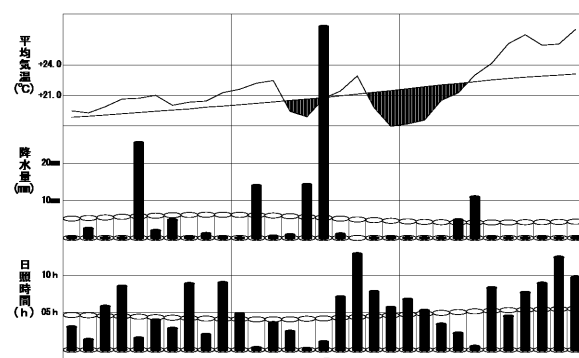
(5) 2012 年 7 月の日別経過図



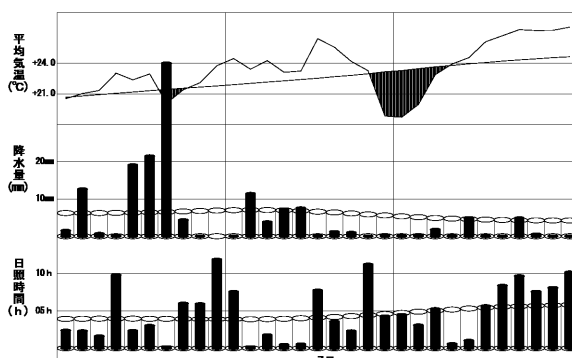
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東北北部の日別経過図



東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）
気温の陰影は平年値より低いことを示す。

(6) 2012 年 7 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3 位以内はなし

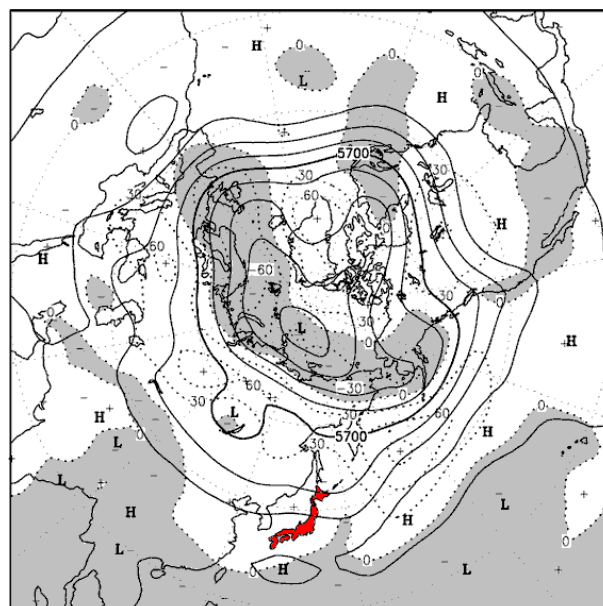
月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

(7) 2012 年 7 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、日本付近は弱い正偏差となった。日本海から沿海州付近が気圧の尾根、日本の東は気圧の谷で負偏差となり、オホーツク海高気圧が発生し、冷たく湿った東よりの風の影響を受けた時期があった。



2012 年 7 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2012 年の梅雨明けの状況（速報値）

地方	平成 24 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6 月 23 日ごろ	同じ	14 日遅い	6 月 23 日ごろ	6 月 9 日ごろ
奄美	6 月 29 日ごろ	同じ	7 日遅い	6 月 29 日ごろ	6 月 22 日ごろ
九州南部	7 月 23 日ごろ	9 日遅い	15 日遅い	7 月 14 日ごろ	7 月 8 日ごろ
九州北部	7 月 23 日ごろ	4 日遅い	15 日遅い	7 月 19 日ごろ	7 月 8 日ごろ
四国	7 月 17 日ごろ	1 日早い	9 日遅い	7 月 18 日ごろ	7 月 8 日ごろ
中国	7 月 17 日ごろ	4 日早い	9 日遅い	7 月 21 日ごろ	7 月 8 日ごろ
近畿	7 月 17 日ごろ	4 日早い	9 日遅い	7 月 21 日ごろ	7 月 8 日ごろ
東海	7 月 17 日ごろ	4 日早い	9 日遅い	7 月 21 日ごろ	7 月 8 日ごろ
関東甲信	7 月 17 日ごろ	4 日早い	8 日遅い	7 月 21 日ごろ	7 月 9 日ごろ
北陸	7 月 18 日ごろ	6 日早い	9 日遅い	7 月 24 日ごろ	7 月 9 日ごろ
東北南部	7 月 26 日ごろ	1 日遅い	17 日遅い	7 月 25 日ごろ	7 月 9 日ごろ
東北北部	7 月 26 日ごろ	2 日早い	17 日遅い	7 月 28 日ごろ	7 月 9 日ごろ

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成 22 年（2010 年）までの過去 30 年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。